日本鐵鋼協會記事

理事會 12月1日(水曜日)午後4時30分開會、出席者、鹽田泰介君、河村驍君、渡邊三郎君、香村小錄君、協議事項 (1)第二回講演大會殘務整理に關する件 (2)本會の加盟せる工學會の評議員會に於て決議せる萬國工業會議に關する件 (3)萬國工業會議會催經費、本會負擔額支出に關し本會評議員會開催の件 (4)會員入退會者承認 (5)其他會務に關する諸件、等にして午後8時15分閉會す。

編輯委員會 12月1日(水曜日)午後5時開會、出席者、田中清治君、室井嘉治馬君、鹽澤正一君、杉村伊兵衛君、協議事項 鐵と鋼 第十二年十二號掲載原稿選定の件 (2)會誌體裁改良の件 (3)其他編輯に關する諸件等にして午後8時15分閉會す。

評議員會 開會時日 場所 大正15年12月15日(水曜日)午後4時30分 日本鐵鋼協會事務所に於て、出席者、鹽田泰介君、俵 國一君、河村 驍君、渡邊三郎君、香村小錄君、原田鎭治君、川上義弘君、桂 辨三君、向井哲吉君、島 安次郎君、日向庄作君、協議事項 (I)本會の加盟せる工學會の評議員會に於て決議せる萬國工業會議開催準備委員各會より2名宛選出する事に關する件、本會選出委員、工學博士今泉嘉一郎君、工學博士河村 驍君に決定。(II)萬國工業會議開催經費本會負擔額金900圓支出に關する件 (可決) (III)定款改正に關する件 (IV)本會內に設置せる研究部會に關する件 (V)其他本會維持に關する諸件等にして午後7時35分閉會す。

編輯委員會 12月22日(水曜日)午後5時開會、出席者、川上義弘君、田中清治君、山本貞次郎君、室井嘉治馬君、三島德七君、杉村伊兵衛君、協議事項 (1)大正16年1月號(鐵と鋼第13年1號)へ掲載原稿選定の件、原稿 (a)鋼の燒戾脆性に就 本多光太郎君、山田良之助君、(b)燒戾硬化の現象に關する研究 松下德次郎君、永澤清君、(c)緊張力試驗に於ける試驗片切斷の經路に就て 絹川武良司君、(d)黑心可鍛鑄鐵に關する成分の影響 菊田多利男君、(2)會誌內容に關する件等にして閉會午後7時30分。

第二回講演大會概況

本會本部の所在地たる東京以外全國各製鐵鋼業中心地に於て每年一回講演大會及見學旅行を催すの企は本會年來の宿望たりしが機漸く熟し本年秋季八幡市に於て大會を開催するに決し豫て發表せるプログラムに依り大正15年11月21日より同25日に至る5日間に亘り講演大會及工場見學を擧行せり其間諸事最も順調に且つ豫想以上の盛況を以つて會期を終始せるは偏に八幡製鐵所始め附近工場、筑豐鑛業組合、九州軌道株式會社、八幡市役所、等周圍の御同情と多大なる御盡力の賜として本會の深く感銘する所なり今左に會期中の概況を次に報告せんとす。

第一日　十一月二十一日　講演會　　（會場　八幡製鐵所職工養成所）

八幡製鐵所職工養成所大講堂に於て定刻前より續々會員の參會あり八幡製鐵所技監を委員長とし各部長始め 20 余名の委員詳密にして遺漏なき準備を整へ會員を迎接せられたるは特に感謝措く能はざる所なり、會員には第二回講演大會講演大要改正プログラム其他の印刷物を配布し定刻に入り先づ鹽田會長開會を宣し野田委員長より列記の通り開會の辭を兼て歡迎の意を述べ折尾を西端とし東北に至る北九州一帶の工業地帶、諸工業施設の概要並に歴史的舊蹟に至る迄詳細に説明せられ大に會員の感興を惹起せり續いて直に講演に入り野田博士司會の下に足立工學士、香春工學士、淺田工學士、齋藤博士の順序にて午前の講演を終了し午後零時半より同所別講堂に於て一同準備の晝食を伴にせり、同食堂内には特に本會の爲めに萬國旗を懸吊し光彩を添へられたるは感謝に堪へず、午後1時より齋藤博士司會の下に午後の講演に入り谷口工學士、菊田理學博士、小林工學士、田所理學博士、景山工務部長の順序にて何れも有益なる講演あり午後5時豫定のプログラムを演了せり、參加會員 180 名聽講者總數 300 名に達し未曾有の盛況を呈せり

講演會終了後午後6時より下の關春帆樓に於て筑豐鑛業組合主催の本會幹部歡迎會あり主人側を代表し同組合總長松本健次郎氏歡迎の辭を述べられ鹽田會長會を代表して謝辭を述べ主客充分歡を盡くして午後9時散會せり

第二日　十一月二十二日　八幡製鐵所見學

定刻午前9時八幡製鐵所本事務所大會議室に參集、同所銑鐵部長鵜瀞新五君、製鋼部長久保田省三君、鋼材部長永田五郎君の三氏より各部の現狀、從來改良の要點及將來の施設等に付説明を與へられ作業上の概念を得それより特に差立てられたる場内列車に便乘し骸炭爐、熔鑛爐、瓦斯送風機、第二製鋼工場、第三大形工場、第二中形工場、第三小形工場、第二厚板工場の順序にて各工場を巡覽後本事務所大會議室にて晝饗を供せられ食事中特に沼田臨時建設部長より新設の河内貯水池の工事概況に關する説明を聽取し午後再び構内列車に便乘し硅素鋼板工場、鍼力板工場、第三製鋼工場、副産部耐火煉瓦鑛滓煉瓦及高爐セメント工場を巡覽一部有志者に對し別に研究所内案内の勞を取られたり各工場には順路を示したる指示貼札の外作業用諸機械の能力工程等を一一表示せられたるは其用意の周到なる一端を窺ふに足る可く又作業も順序能く骸炭押出、熔鑛爐出銑、平爐出鋼、大形溝材、中形レール、小形丸棒等の壓延を時刻を計りて觀覽せしめられたるは當局者の苦心察するに餘あり　構内見學終了後特に仕立てられたる貨物自動車に便乘雨中を冒し河内貯水池を參觀し大製鐵所作業系統の大要を窺ふことを得たり

同夜八幡高等女學校大講堂に於て八幡市及本會主催の通俗講演會を催ふす午後6時開會、市長代理助役猿野子之吉氏の開會の辭に次ぎ野田博士、河村博士、俵博士の順序にて適切なる講演あり聽講者に多大の感動を與へたり以上終つて鹽田會長の閉會の辭あり特に八幡市民の製鐵所の繁榮に對する協力に就て希望を述べられたり尚ほ講演後八幡製鐵所活動寫眞並に門司鐵道局の厚意に依る九州巡廻活

動寫眞の映寫あり會衆の歡興を惹起せり午後 11 時閉會聽衆者 500 名に達せり

第三日　十一月二十三日　講演會　（會場　八幡製鐵所職工養成所）

21 日に引續き製鐵所職工養成所講堂にて講演會を催ふせり、午前中本多博士の司會の下に中上義勝氏、佐々川工學士、林工學士、武田工學士の順序にて演了し正午一先づ休憩別室に於て前日通り晝食の後午後 0 時 40 分再會俵博士並に服部博士司會の下に高橋工學士、松下理學博士、小田切氏代講者居城又雄氏、金子工學博士、本多理學博士の順序にて何れも有益にして趣味ある講演あり午後 4 時半演了鹽田會長は會を代表して講演者、講演司會者、八幡製鐵所委員以下盡力者一同の連日に亘る多大の盡力の下に最も有意義なる會合を終了せるを感謝し閉會を宣せり、尙ほ引續き八幡製鐵所活動寫眞並に九州巡回活動寫眞を映寫し觀覽に供したり、多數の會員は門司倶樂部に於ける懇親晩餐會の定刻迫まれるを以て急ぎ同所に赴けり本日聽講者は前日に劣らざる盛況を呈し盛大裡に講演會を終了せり。

同夜午後 6 時半より門司倶樂部に於て會員懇親を兼ね盡力者に對する謝恩會を催ふせり來賓側製鐵所幹部、見學工場主務者、地方有志、講演者等 35 名會員 55 名合計約 90 名に達し盛況を呈せり、場所柄と云ひ料理献立（純粹上海料理）と云ひ選定宜しきを得たりと云ふ可し席定まるや會長立つて一場の挨拶をなし當地方各位に負ふ所多きを論じ主客充分の觀を盡くされんことを希望せり宴酣なる頃九軌重役宮田兵三氏來賓一同を代表して謝辭を述べられ獨り製鐵鋼業のみならず工業地帶としての北九州を研究せられんことの希望を附言せられたり次で、九大高教授の過去 30 年間北九州在職中に於ける回顧談あり鑛石及燃料の外製鐵其他セメント工業に必要なる石灰石產地の開發並に苦灰石、耐火硅石材等の發見上の苦心談を述べられたり尙ほ野田委員長の發起にて參會者中最年少者の發言を求められ中上義勝氏の研究上に對する希望、佐々川淸氏佛國在留中の回顧談あり歡興盡くる處を知らざる狀況なりしも午後 9 時半割愛して散會せり

第四日　十一月二十四日　工場見學

第一班

午前 8 時八幡製鐵所戸畑作業場（東洋製鐵）に參集事務所に於て鵜澤銑鐵部長の說明を聽取後洗炭、骸炭爐、副產物工場を巡覽後、熔鑛爐並に附屬設備を見學せり、殊に熔銑レードルを新造運銑丸に積込み海航八幡に移送の狀況を目擊せしは一同珍しく感じたり、同處は目下 300 瓲爐 1 基操業中にて休業中の 150 瓲爐は目下 200 瓲に積替中、來年度よりは年產 17 萬瓲と豫定せらる次で戸畑鑄物工場に赴き塚本常務より工場經營上の大要を聽取後製品陳列所に案內せられ同所の苦心に成る各種無數の製作品を觀覽して工場に關する概念を得、次で木型工場、鑄造工場、混淨工場、燒鈍工場、鍛冶工場、機械工場、內燃機工場、鍍金工場、倉庫等を巡覽したるが何れも規模整然たるものにて目下黑心可鍛鑄鐵年產 300 瓲、鋼鑄物 1,000 瓲鑄鐵物 2,000 瓲、合計 6,000 瓲を製出し特に內燃機に 5 馬力以下の農業用及漁業用發動機にて 1 日 10 台を製作し年產 100 萬圓に上ると云ふ、正午九軌戸畑終點に於ける食堂に案內せられ午饗を供せらる卓上塚本氏の懇切なる歡迎の辭に鹽田會長の鄭重ある謝辭あり食

後筑豐鑛業組合より差廻はされたる小蒸氣船2隻に分乘し石渡信太郎氏其他より若松港内石炭荷役の狀況に關する說明を聽取し對岸若松市に着し東海鋼業株式會社工場事務所に赴けり、同所にては常務鈴木柳藏氏の歡迎の辭に鹽田會長の謝辭ありそれより製板製條の當工場を案内せらる同所は製鐵所より鋼塊、鋼片の供給を受け壓延作業をなすものにて中板ロール及中形ロール機を備へ目下月產3,100瓲内外の由なり同所を辭して後直ちに隣接の戸畑鑄物若松工場（舊稱帝國鑄物會社）に赴き工場長矢野美章氏より說明を聽取し鹽田會長の挨拶後工場を案内せらる同處は製鋼、製紙其他のチルドロールの鑄造を專業とせる本邦最大の專門工場にして 10 年前迄さしも困難視せられたる厚板用チルド大ロールも容易に内地に供給を求め得るに至りたるは同所當事者の苦心研究推稱に餘りある次第なり、午後4時半工場見學を終り往途と同じく小蒸氣船に便乘對岸戸畑に於て會長の散會挨拶にて本日のプログラムを終了せり本日參加人員約100名に上ぼり一同非常の滿足を表したり

第　二　班

午前8時淺野小倉製鋼所に參集事務所階上の設けの休憩室に入常務取締役末兼　要氏より歡迎の挨拶に次で工場の沿革及淺野社長存生中の事業とする海岸埋立の計劃等懇切なる說明あり直ちに末兼常務の案内にて工場に入り、平爐工場（20 瓲平爐 3 基操業中）小型壓延工場、線材壓延工場、拉伸工場、亞鉛引鋼索工場、分析室、試驗室等見學して同所製品陳列所に至り多數の鋼材製品を實見せり當工場は硬軟各種の鋼材を製造され居れ共壓延製品は小形品と線材を得意とす當所の見學了て野田委員長の謝辭あり次に、東京製綱會社小倉工場に至り先づ設けの休憩所に入れば原料より製品に至る實物陳列及各種製品の陳列ありて一見當工場に關する概念を得せしむ、全員集合を以て香月工場長の懇切なる歡迎の辭に次で當工場經營上の大要を述べられ菊池技師長の工場一般の說明あり4班に分れて各案内に伴はれ工場に入り麻心工場、加熱工場、洗滌工場、乾燥作業、製線作業、鍍金作業、ワイヤ試驗工場、撚線工場、製品試驗室、顯微鏡試驗室等を見學して鋼索の材質及製造の知識を得又一方に當工場に於て製品に對する苦心をも察せらる、當會社は明治 20 年麻鋼を機械にて製造するに始まり，明治31年鋼索の製作を始め本邦に於て斯業の鼻祖たり、特に鋼索事業は東洋に於て嚆矢とす、當小倉工場は明治39年の創設にして現工場敷地、10,470坪 建坪 3,789 坪にして年產額 6,000 瓲なりと云ふ見學了て野田委員長の謝辭あり、次に大里の帝國麥酒會社櫻ビール工場に至り時恰も正午なれば同所階上に設けられたる食堂に入るや黑岩、植田兩支配人の懇切なる歡迎の挨拶あり之に對し野田委員長鄭重なる謝辭ありて食堂の一部に陳列の實物配列及系統圖等に依り油田技師長の說明を聽きつゝ同所製造に係る麥酒並清凉飲料數種の試飲を始む同時に東京製綱會社より供せられたる午餐を喫して兩支配人技師長の案内にて工場に入り數組に分れ原料倉庫大麥タンクより順次發芽、炒燥、糖化釜、醱酵、瓶詰め、殺菌，札貼等に至る殆んど連續自働的の作業を觀覽し一同珍らしく感じたり、當工場は明治45年の創設にして敷地 14,000 坪、建物 7,600 坪を有し、製造能力麥酒 75 萬箱、清凉飲料 15 萬箱と云ふ、次に明治專門學校と旭硝子工場見學とに分れたり、明治專門學校に至れば、中川教授の歡迎の

挨拶に次で同校開設以來現時に至る北九州の工業發展に就て說明あり長谷川委員の謝辭ありて中川教授、森教授、嘉村講師の、案內にて各教室、實驗室、學寮軍事教育練習場等見學せり、同校は明治42年の開校にして第15回卒業生を出し、工業專門教育の學校として設備最も完備せり敷地は擴大にして總坪數87,458坪、建物總坪數10,474坪にして本邦專門教育の權威として直接間接に北九州の工業發展に與りし事大なるべし。一方八幡牧山旭硝子工場に至り同工場次長岩井秀男氏の歡迎の挨拶に次で硝子製造の諸種の方法に付き說明あり終て會員數班に分れ硝子熔解窯、吹部作業、延部作業、切部作業荷造作業及び同所の曹達工場等懇切に說明を得つゝ見學し終て黑田委員の鄭重なる謝辭ありたり同會社は明治 40 年の創立にして資本金 1,250 萬圓、所有工場は三ケ所あり尼ケ崎工場、鶴見工場、牧山工場等にして全年產額、各種寬硝子 140 萬函（1億 4,000 萬平方尺）曹達灰重曹 1 萬 5,000 瓲、鹽化石灰 4,000 瓲、炭酸石灰 3,000 瓲、補助肥料促肥素 5 萬町分、耐火煉瓦 3,000 瓲と云ふ、本邦斯業の權威として周知の處なり、以上にて本日の第二班工場見學を遲滯なく終了せり。

第五日　十一月二十五日　工場隨意見學

昨日を以て正式の大會プログラムを終はり本日は隨意見學日なりしに拘はらず昨日に劣らざる盛況にて定刻前より續々黑崎停留所に參集安川電機工場に赴き工場技師長安川第五郎氏其他技術員の案內にて木型工、場鑄物工場、鐵板工場、鍛冶製罐工場、絕緣工場、變壓器工場各種試驗工場等を巡覽せり同所には元獨逸國シーメン會社技師たりし獨逸技師 1 名を雇入れ工場能率の增進を計り且つ電氣機械は特有の意匠を工夫研究せられつゝありと坑內用蓋付スウイッチギヤーの如き特種品も亦製造せられる、次に黑崎窯業に赴き松本健次郎氏及工場長高良淳氏の案內にて耐火煉瓦工場、碎石、型打及燒窯工場を巡覽せり同所は最近耐火煉瓦製造上苦心研究の結果民間製造所中最優良の品質を以て評せらる、次で九州製鋼工場に赴き本事務所にて村田氏の說明及挨拶、會長の謝辭ありそれより製鋼、製板、製條の各工場を巡視す、同所は厚板及大型を目的とし電動機は各 2,000 馬力全部米國の最新の型式によるものにて設備整然而も爐及機械の頑强なる構造は勿論殊に平爐に於ける變更瓣裝置、ロール機に於けるフオーク減速裝置ベルト式ランアウトテーブル等は新奇の試みとして注目せらる只新設後時代の變遷に遭遇しまだ作業の開始せられざるは獨り經營者の遺憾のみにはあらざるなり

工場見學終はり同所內にて黑崎窯業より午餐を供せらる午後の見學は二班に分れ一は折尾より乘車二瀨炭坑見學に赴き他は安田製釘場に赴けり。

二瀨炭坑班

午後 12 時 15 分折尾發車筑豐石炭鑛業組合より提供せられたる中食を取り特に同乘せられたる石渡信太郎、林嘉雄兩氏の說明により沿線著名炭坑の狀況筑豐鑛業組合の施設等に就き聽取し順路中間植木、直方、勝野、小竹、鯰田等を經て芳雄にて下車野田勢次郎氏の出迎を受け、筑豐石炭鑛業組合長及麻生氏より提供せられたる 4 臺の自動車に分乘し二瀨炭坑に赴く先づ製鐵所二瀨出張所事務所階上に於て林所長より同坑の概況を聽取後安全燈庫、竪坑、撰炭工場、捲揚室、仕上製罐鑄物工場を巡覽

後二派に分れ少壯組約 10 名は坑內見學を希望し老人組は幸袋工作所見學に向へり二瀨炭坑は和田長官時代製鐵所用炭自給の目的を以て明治 32 年同所を買收せられたるものにて當時高雄、潤野 2 坑なりしが其後中央本坑を開鑿し又た海軍豫備炭田稻築鑛を移管して今日に至りたるものにて大正 14 年 147 萬 7,000 瓲の出炭あり製鐵所必要炭の約 6 割を自給せるは和田氏の先見と謂ふべし幸袋工作所は筑豐炭田中最大の工作工場にして汽罐、汽機、喞筒、捲揚機、旋風機、洗炭輸送機等の炭坑所用機械を始め製鐵、鐵道用品一般鐵工構作物の製作を專業とし副業として電燈、電力を供給す、同所主任の案內の下に木工、鑄物、旋盤工、冶工、鑢工、罐工等の諸工場を經て最後に職工養成所の施設に就き說明を聽取して同所の見學を終了し芳雄驛にて二瀨坑內見學班と相會し服部團長より林、野田兩氏へ厚遇を感謝せられ同驛より往途と同一の經路を取り午後 5 時 17 分析尾驛に着し散會せり同行者 32 名なり

此日黑田副產部長の周到なる御注意と折尾驛長の厚意に依り特に吾等の爲めに貳等大形列車 2 臺を聯結されたるは感謝に堪へざる處なり

二十五日午後工場見學班

安田製釘所に至り設けの天幕に入り一同休憩、同所工場長の懇篤なる歡迎の挨拶に次で工場の沿革及製釘作業上の大要の說明あり鹽田會長の鄭重なる謝辭ありて工場長初め數名の案內にて工場に入り伸線、製釘、製樽、荷造り等の作業を實見し其道程の順序整然たるに皆興味を持ちて見學せり當工場の製品は八幡製鐵所製の轉爐鋼を原料とするを以て其質靱硬にして使用者間に好評ありと云ふ又此工場の傳動裝置は地下に採りたるは安全裝置として模範なりと云ふべし同所は東洋に於ける製釘事業の鼻祖にして現今本邦に於ける斯業第一位の會社なり、次に王子製紙會社小倉工場に至り設けの天幕に入り同工場長の懇切なる歡迎の挨拶に次で製紙作業上の大要を聽取し鹽田會長の鄭重なる謝辭あり工場に入り原料の處理より製品に至る道程皆連續自動的なるを以て順次に見學し最後の仕上がりに於て一分間何百呎の速度にて紙の製出されるを見て一同感興を催せり、當工場は北九州に最も舊き歷史を有し現今更に大擴張中にて其一部分は已に完成し試運轉中なり此新裝置は甚大にして東洋に於て當工場は最初の試みなりと云ふ又新設運轉中の當工場中最大の製紙機械は全部純日本製にして外國製に比し些の遜色なく却て外國製より能力大にして取扱便なりと云ふ當會社が斯界の權威なるは周知の事なり、次に淺野セメント門司工場に至り設けの休憩所に入り工場長の歡迎の挨拶に次で作業上の大要を聽取り工場に入り原料の陸上より配合、石灰、クリンカーの燒成、粉碎、樽詰めに至る迄案內者の懇切なる說明を得て再び休憩所に戻り休憩中饗應あり又セメントは日常品なる故質問者多く之に一々工場長の懇切應答ありたり本會社は周知の如く斯業に於て本邦第一位の會社にして淺野セメントの本年 10 月迄での全產額は 6,739,460 樽にして其內當門司工場に於て 3,464,950 樽を生產す（樽380 lbs 入）尙本工場は高級セメントを得意とし主に之を製造す、終りに久保田委員、會長に代り鄭重に謝辭ありて又會員一同に對して本日を以て日本鐵鋼協會第二回大會のプログラムの全部を無滯終了し盡したるを

告げ會員一同の健康を祝し散會を告げたり一同大滿足にて歸路に着けり。

終に臨み以上各會社工場に於かれて御繁忙中にも不拘本會見學團の爲め工場を開放せられ特に天幕舍、休憩所等設けて厚遇せられ且つ懇切なる說明を與へられたるは感謝に堪えざる處なり。

野田委員長の開會の辭 (大正 15 年 11 月 21 日於製鐵所職工養成所講堂)

今回日本鐵鋼協會の第二回講演大會を此八幡市に於て開催せらるゝ事になりまして私が準備委員長と云ふ大役を仰せつかりました爲めに茲に開會の辭を述ぶる事になりましたのは誠に光榮に存ずる次第であります。本協會が東京以外の地方で講演會を開きましたのは昨大正14年の夏の盛に海軍の大工廠のある吳市に於きまして本協會以外に機械學會及火兵學會と共に行はれましたのが最初でありますが本協會が單獨に而かも第二回講演大會として地方に此如き大會を開催致しまするは之が實に初めてゞあります。之は一つに會長初め理事諸君の御英斷の然らしむる處と謹而敬意を表する次第であります。然るに其八幡市に在住して準備の役を引受けました吾々は一向に不慣で萬事不行屆でありますので折角遠方より貴重なる時をつぶしてお出下すつた方々に對し何等御期待に副ふ事の出來ないのは誠に汗顏の至りであります。殊に此附近は宿屋等は實に不便でありますから定めし御不自由の事が多かろふと存じます、小言は御遠慮なくおつしやつていたゞきますれば出來る丈けの事はいたします、今回の諸記錄によりまして將來又他の地方で大會を催します場合の參考に供したいと存する次第であります。今度でこりこりしたからもう地方の大會へは行かないなどと云ふ事のない樣に致したいと思ふのであります。御覽の如く物質的の設備萬端不行屆でありますが之れは我慢していたゞくとしまして今回の諸講演は斯道の學者實地家を網羅しまして實に 22 名に達する諸專門家の心血を濺がれたるものでありますから、之れによりまして皆樣のわざわざ遠く八幡の此黑い煙の町にお出になつた御不自由は充分につぐなはれる事と信じます。尙其上に當地方に御親しみの少ない諸君の爲めには所謂北九州工業地帶に於ける各種各方面の一流大工場は今回の大會に贊成されて喜んで其門戶を扉いて當協會々員の見學を歡迎して居られますから之亦御興味を引く事が多くある事と思ふのであります。

折角此地方に御出になつた以上御見學の便もありますから茲に極簡單に所謂北九州工業地帶の事を御話して御參考に供し御土產話にしていたゞきたいと思ふのであります。抑北九州工業地帶と申すものに對しては別に六ケしい區劃があるわけではありませんが一般に之から汽車で約 6 哩電車で行きますれば一方の終點になつて居りまして約 25 分で行ける折尾と云ふ九州本線の乘換驛がありますが、其町から東北一帶の九州の北端部を申して居る樣であります。歐洲大戰中には折尾驛附近にも熔鑛爐や煉瓦工場などが建てられましたが今は皆立腐れにやりつぱなしになつて居りまして日米板ガラス會社が一軒盛んに仕事をして居るのみであります。其外の工場は折尾から 4 哩程こちらの黑崎から以東にありますので差上げました地圖や畫端書にも黑崎迄しか書いてないのであります。夫れから之は九州の內ではありませんが、山口縣の彥島は工業地として中々盛んな處で之も北九州工場地帶の總稱の

内に入れてあるのであります。窒素固定の「ハーバー」式の向ふを張つて居る「クロード」式の工場も茲にあります。此北九州が今日の如く盛んな工業地帶となりましたのは直ぐ近くで出る石炭と御覽の如く外海へも瀬戸内海へも便利なる海運との天惠の爲めでありまして、石炭は今申しました折尾驛から南方へ10里以上に及びまして遠賀川の流域一帶に約 50 平方里の廣さで筑前、豐前の兩國に亘る本邦第一の炭田から出すのであります、所謂筑豐炭田で此外にも九州には三池、佐賀、粕屋近くの山口縣では最近の發展による宇部等の炭田がありますが夫等の炭田を加へずに單にこゝのみで年に約1,200萬瓲の石炭を送り出して居ります、實に本邦總產額の 45 %で茲に次ぐのは北海道でありますが、之はあの廣い北海道全體でまだ500萬瓲程度のものであります。序に申上げて置きますがまだ御覽になつた事のない方は鐵鋼の製造と離るべからざる關係のある此日本一の大炭田地方を是非一度御覽になる事をお勸め致します、之が爲めには特に筑豐炭田採炭技術者のぬしとも云ふべき今回の準備委員の一人である石渡信太郎氏に御願して御案内を願ふ事に致してあります、平素鐵ばかりを見て居られる方には特に此んなよい機會があるのであります、北九州で此石炭を利用して大工場を初めましたるは門司で御覽になります。あの淺野セメント工場で創立が日清戰役當時の明治 27 年でありまして續いて翌年もふ一つ黑崎に中央セメント工場が出來たのであります。尤も明治 24 年には門司と久留米の間の九州鐵道は既に開通して居りましたし筑豐石炭鑛業組合は明治 18 年に出來て居りましたので工業の投資着手の方が餘程遲れて居たのであります。現在の官營製鐵所を設置せんとするの議は明治 28 年の第九議會を通過したのでありますが、愈北九州の八幡と決定されましたのは明治 29 年の事で翌 30 年から工事にかゝつて明治 34 年に第一熔鑛爐の點火式でありまして其年の 11 月 18 日に第一の起業祭が執行され爾來每年其日に盛んなる御祭りがありまして今年も一昨々日第 26 回のお祭りでまだ其ほとぼりがさめぬ處でありますから町でも工場でも何となくごたごたして居るのであります、八幡の町は明治 21 年頃には其名を知る人もなく戶數 350、人口 1,200 餘のとびとびの半漁の小さな村でありましたが、製鐵所の發展と共にだんだんに人も集りまして最近には黑崎町とも合併しまして實に 13 萬に近い大都市になつたのであります、僅か 38 年ばかりの間に 100 倍以上になつたのは日本中にも外に例の少ない事でありませう。製鐵所創立後北九州には現に御存じの製鐵鋼の工場以外に製糖會社、製綱會社、紡績會社、ガラス會社、鑄物會社、製粉會社、ビール會社、陶器會社、大火力發電所、造船所等歐州大戰中の大景氣のお蔭もありますが、ありとあらゆる諸種の工場が勃興致しまして今日盛にやつて居ります。工場は發電所官營製鐵所をも加へまして約 40 投下して居ります設備費は 3 億萬圓に及び年に使ひます石炭は 300 萬瓲に達して筑豐炭年產の 1/4 を消費する次第であります、總電力、之は町の電燈電車も入つて居りますが、約 5 萬 1,000 kw(内水力約 7,000 kw)であります。

海運の便は門司にはいかなる大船も容易に碇泊致しますし若松戶畑の間の港は干潮 12 呎製鐵所のベースンは 25 呎に据つてありまして滿潮時には 6-7,000 瓲迄も入りますのと。こゝの最も水運の

の利を占めて居る事は阪神地方に到る迄瀬戸内海へ和船でどんどん行ける事でありまして若松と戸畑とで年に800萬瓲からの石炭を直接筑豐から汽車でもつて來て船に積みかへて出して居りますが、實に本邦第一の石炭集散地であります。今度の御見學には之も其一部を御覽に入れる事になつて居りますが、若松の和船の集つて居る有樣は誠に壯觀なものであります。八幡が今日市として昔の100倍の人口を集めて居ります樣に門司も若松も戸畑も皆今日では市になりまして、此北九州の門司から八幡迄の僅か5里か5里半の間に古い城下の小倉市も入れまして市が5つもあるのであります、福岡縣には8つの市があると云ふので一つの自慢になつて居りますが、福岡、久留米の古い城下と三池炭田の大牟田を除く他の5つは此の如く殆んど此一地方にかたまつて居ります程北九州工業地帶は隆盛になつて居りますが只一つ困つて居りますものがあります、夫は上水用の水源が甚しく乏しい事でありまして之には各工場一方ならぬ苦心があります、製鐵所も先年來之が解決の爲めに數百萬圓をかけまして二大貯水池を作り一つは既に水をためつつありますが製鐵事業の如く冷やし水を澤山使用します作業には水と云ふ事は重要なる問題である事は萬々知れ切つた事ではありますが切實に苦しんだ結果遂に思ひ切つた大貯水池を作る事になつたのであります、從來は少し日でりが續くと工場を止めて雨の降るのを待つと云ふ樣な事も時々あつたのでありますがもう大丈夫の積りであります。明日の製鐵所御見學中にはやつと出來上りました河内貯水池を見て頂き如何に水に苦しんで零碎の水の一滴をもためるため大なる費用を投じて居るかを充分に理解して頂きたいと思つて居ります。

以上申しました樣に北九州も既に30年以上工業地として發達して來ましたので勞働に從事して居る人の數は實に非常なものであります。製鐵所以外の北九州の民營工場の大部分は勞資協調の目的を以て聯合して工親會と云ふ會を造つて居ります、今日其れに入つて居ります會社數が37で此10月現在の定傭職工數1萬3,807人といふ數字を示して居ります、之に製鐵所の同月の定傭職工數1萬7,669を加へますと約3萬1,500の多數でありまして此外に其日傭の職夫、人夫、更に前述の石炭の積下ろしの仲仕等が總計約2萬と見まして實に5萬以上の工場と石炭に關係する丈けの勞働者があります。朝鮮の人も大分澤山來て居りまして八幡警察署は通譯に製鐵所は守衛に鮮人の役人が居ります、鮮人學校も出來て居ります。北九州の工場地帶の總人口は約40萬でありましやうが其過半は每日腕で働いて衣食して居る人が其家族であるのであります、一寸電車にお乘りになつても東京や京阪地方の都會で見る樣な華美な弱々しい樣な人は餘りお目にとまらないのは夫れが爲めに外ならぬのであります。

餘り長くなりましたが序に申上げて置きたい事は北九州は右の如く石炭をもとゝして活躍して居る今日では煙の多い土地でありますが、一方には珍らしく歷史的の遺跡が多い處でありまして製鐵の仕事とは全然趣味を異にした一種の低回趣味ではありますが、極簡單に申しますと第一が神功皇后の御遺跡で1,700年の昔皇后が深く祀られたといふ謠曲で有名な門司の和布刈神社。其近所の昔の文字が關趾。皇后凱旋後の甲を祭つた門司の甲宗八幡。皇后が三韓征服後到着されたと云ふ傳說のある此の近

所の電車の停留所。到津(イトウヅ)。三韓征伐の軍艦の帆柱を切り出したと傳へらるゝ製鐵所の上の皿倉山や帆柱山門司からこちらへ來る電車停留場の名で白木は新羅、葛葉は百濟、小森江は高麗で何れも三韓朝貢使の船のつく處であつたのだといふ事であります。第二は平家の沒落の遺跡としては下ノ關の檀の浦。又今のビール會社などのある大里は內裏で。安德天皇の行在所があつたと云ふ柳の御所のあとゝいふ處も殘つてをります。第三は秀吉の朝鮮征伐の遺跡として大里の沖で彥島の西南に當る處には秀吉が瀨戶內海から出て九州の唐津方面へ渡船する時に其船がのし上げて沈沒して大騷ぎをし爾來其船頭の名からして與次兵衞岩といふ有名な暗礁がありまして其後も航海者の難處でありましたが今は內務省の手でやつと片付けられました。六連島なども近く景色のよい處であります。第三には德川時代に小倉の小笠原家に指南役をして居た宮本武藏は下の關と彥島の間にある今の岩柳島で佐々木岩柳と仕合をしたのは有名な事で皆樣も御存じと存じます、昔から宮本武藏に關する石碑も殘つて居ります。德川時代には筑前は黑田領。豐前は小笠原領で其兩國の境の印はこゝから一町程東の官舍の中に今も昔のまゝの松の木が殘つて居ります。第四は維新時代に門司から小倉へかけては長州藩と小倉藩と激戰をした處で小倉の勝山城は其時に燒かれてしまつたのであります。又八幡の町はづれの黑崎はもとは八幡よりづつと賑かな宿場でこゝから船で下ノ關と直通して行ける樣になつて居つたのですがそこの櫻屋といふ本陣は例の七鄕の長州港から更に九州に落ちのびる時暫く滯留して居たと云ふので其碑などが建つて居り其外にも西鄕隆盛や平野國臣などの維新の大人物が往復に立寄つた處だと云ふので有名であります。今度の工場見學の內の安川電機會社は此櫻屋の角から入るのでありまして此宿屋は今も全盛にやつて居ります。第五には明治時代になりましては小倉の城跡に出來た第十四聯隊には乃木大將が少佐時代に聯隊長となり明治 10 年の征南の役に熊本城と聯絡すべくこゝから出られたのであります今其の居宅のあとに印の杭が建てゝあります。

以上開會の辭としては餘りに長くなりましてつまらぬ事に淸聽を煩ははした事をお詫いたします。

（了）

鐵鑛の產地調

內地重要鐵山

產地	鑛量
釜石(岩手縣)	3,500 萬〃
倶知安(北海道)	550 萬〃
赤谷(新潟縣)	400 萬〃
その他	
朝鮮	
茂山(三菱製鐵咸北)	1億0,000 萬〃
端川(〃)	1,000 萬〃
載寧(農商務省所有黃海道)	150 萬〃
滿洲	
兒溝(煤鐵公司奉天) 富鐵鑛	140 萬〃
兒溝(煤鐵公司奉天) 貧鐵鑛	7,000 萬〃
了張嶺(日支合辦遼陽縣) 富鐵鑛	250 萬〃
了張嶺(日支合辦遼陽縣) 貧鐵鑛	2億6,000萬〃
鞍山(日支合辦遠陽縣) 富鐵鑛	200 萬瓲
鞍山(日支合辦遠陽縣) 貧鐵鑛	4億0000 萬〃
支那	
金嶺鎭(日支合辦魯大公司山東)	1,570 萬〃
龍烟(直隸)	4,200 萬〃
經山(河南)	75 萬〃
大冶(漢冶萍公司湖北)	3,560 萬〃
象鼻山(官營湖北)	1,000 萬〃
紀象絡(官營及漢冶萍湖北)	1,500 萬〃
桃沖(裕繁公司安徽)	500 萬〃
太平(安徽)	5,400 萬〃
銅官山(裕繁公司安徽)	4,300 萬〃
鳳凰山(安徽)	2,000 萬〃
牛首山(江蘇)	500 萬〃